



# おかむら通信 第 139 号

平成 28 年 11 月



## ご挨拶

10 月は、気候の変化により体力が低下している方々に、色々な病気が出現することがあります。

皆様はいかがお過ごしでしたか？

特に、まじめな方々は、精神的なストレスとの闘いに悩まれることが多いので、そういう方には、余計、応援したくなりますね。少しいい加減な人を真似て、力を抜くことも大事ですね。

いま、ブータンの国での感激を掲示板に乗せ始めました。やはりそこに行った者でしか味わえないものがたくさんありました。平凡な掲示ですが、どうぞご覧ください。出会った人々から得たもの、日本で得る情報との食い違い、貧しい国だからこそ、生きたる哲学を学ばせていただきました。

## 今月の言葉

「 Life is what we make it, always has been, always will be. 」



人生は自分自身がつくるものだ。これまでも、これからもずっと 」

## “ 院長 より ”

\*最近の診察室での会話から



健康食品といわれるものの 80% は 偽りです。(20 年前の米国国内の調査から)

ほんものの GP (総合診療医) を語る人はそうはいない。

薬と病気、薬が病気を作っている場合がありますよ。

脂肪肝には 3 つありますよ。過食による・アルコールによる・ダイエットのやりすぎによる (これはとても危険)

市の健診のあやういところ、異常値のごまかしに気を付けてください。

自ら考える方。巷にとびかっている誤った情報に疑問を感じるすばらしい患者さん。

\*医療とは 哲学ですね。

立体的な治療、つまり 3 次元、平面ではないのです。



4次元の治療、つまり過去・現在・未来（近い）において病気は変幻自在に変化します。投薬も、検査も、患者さんの瞬間瞬間の病態において変化させるべきなのです。

病気について：患者さんが自分で治す部分は、すくなくとも60%以上ではないでしょうか。

ブータンで感じた、本当のこと。

必ずしも幸せの国にはみえない。かなり幾多の矛盾と課題をかかえていた。しかし少なくとも、われわれ日本より、課題の数々を認識し、解決する手立てを考え、そのために行動し、実際に国民が解決実行中なのである。

この数年で普及した携帯電話、小さな僧侶が携帯画面でお経の字面を追っていた。こどもは、ふつうに英語をしゃべっていた。

教育は国王がすべてまかない、医療もそうである。これだけ貧しい国ができて、どうして、どこかの国はできない、やれないのか。

そこには、どうしようもない だらしなさを どこかの国に感じてしまうのはわたしだけだろうか？



## 認知症診断について

いままで、簡単診断をおこなってきましたが、11月1日より、長谷川式簡易知能評価スケールを導入しました。みなさまためしてみましよう。

## 院長 仕事コーナー

10/06(木) 異業種と会談

/13(木) 北海道函館での親睦と社会見学

/15(土) 松戸市夜間救急小児センターにて当直

/18 新松戸中央病院へ、冠動脈造影CTスキャンについて

/20(木) ロータリーガバナー公式訪問 朝から夕まで

/26(水) 市内ロータリー4クラブ合同例会・情報研修会(勉強会) 松戸商工会議所

松戸

函館

市立病院

新松戸

伊勢丹松戸

松戸商工会議所



草月晩の、念えこみかい  
厳しくな、てきましたね。  
首、手首、足首の3つの首を  
しっかりあたためて元気に  
過ごして下さい。 七種

